

礼拝メッセージフィードバック

<今日の聖書箇所は…>

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

セル ガイド

- ① 祈り、賛美によって主がここにいてくださることを信じ、聖霊様があがめます。
- ② 互いの存在を感謝し、尊敬するところを分かち合しましょう。
- ③ ディポジションの分かち合いをします。
- ④ セルの目的と働きについてみなで共有して、祈り、遣わされて行きましょう。

家族礼拝ガイド

年長のクリスチャンがリードしてください。進め方にはいろいろな意見が出るかもしれませんが、「主に期待する」信仰が最も大切です。いつもの家族のでいいのです。

- ① この1週間で神様はすばらしいと感じたのはどんなこと？
- ② この1週間でお互いにどんなことを感謝しますか？（または誉めたいですか？）1つだけ。
- ③ 聖書のみことばから、どんな実践をして、またどんな恵みがありましたか？
- ④ 互いの必要のために祈りましょう。

デーヴォ ガイド



20120.4.13-19

But **grow** in the grace and knowledge of our Lord and Savior Jesus Christ. To him be glory both now and forever! Amen. II Peter 3:18

L T G ガイド

- ① お互いへの感謝と誉めることを分かち合しましょう。（2～3つ）
- ② 1週間の罪を言い表して悔い改め、互いに祈りましょう。
- ③ 礼拝メッセージの分かち合いをします。
礼拝メッセージの分かち合いが難しい場合はディポジションの分かち合い（なるべく短く）
- ④ 預言の祈り（主の御心を宣言して祈り）をします。



5:1 さて、モーセはイスラエル人をみな呼び寄せて彼らに言った。聞きなさい。イスラエルよ。きょう、私があなたがたの耳に語るおきてと定めとを。これを学び、守り行ないなさい。

5:2 私たちの神、主は、ホレブで私たちと契約を結ばれた。

5:3 主が、この契約を結ばれたのは、私たちの先祖たちとではなく、きょう、ここに生きている私たちひとりひとりと、結ばれたのである。

5:4 主はあの山で、火の中からあなたがたに顔と顔を合わせて語られた。

5:5 そのとき、私は主とあなたがたの間に立ち、主のことばをあなたがたに告げた。あなたがたが火を恐れて、山に登らなかったからである。主は仰せられた。

5:6 「わたしは、あなたをエジプトの国、奴隷の家から連れ出した、あなたの神、主である。

5:7 あなたには、わたしのほかに、ほかの神々があってはならない。

5:8 あなたは、自分のために、偶像を造ってはならない。上の天にあるものでも、下の地にあるものでも、地の下の水の中にあるものでも、どんな形をも造ってはならない。

5:9 それらを拝んではならない。それらに仕えてはならない。あなたの神、主であるわたしは、ねたむ神、わたしを憎む者には、父の咎を子に報い、三代、四代にまで及ぼし、

5:10 わたしを愛し、わたしの命令を守る者には、恵みを千代にまで施すからである。

5:11 あなたは、あなたの神、主の御名を、み

だりに唱えてはならない。主は、御名をみだりに唱える者を、罰せずにはおかない。

イスラエルが新しい地、約束に地に住もうために、何よりも必要なことは神の御心を行うということです。その教えである十戒を守ることがその基本になります。この十戒はまた「契約」でもあります。それを守るなら、神は祝福してくださるが、背くなら守りはなくなることです。

その十戒は「火の中からあなたがたに顔と顔を合わせて語られた」ものであって、神の権威と力が伴うものです。私たちはこれを正しく怖れて、従う必要があります。

イスラエルはこの戒めを守ることができませんでした。それは全人類に共通です。その結果としての滅びからは、誰も救うことができず、ただイエス様の身代わりだけが、赦しと救いの道となるのです。

ですから私たちは、この十戒を守るとともに、守りきれない自分自身を深く認め、主イエス様の救いに感謝するのです。救いの必要と感謝のためにもこの十戒は大切なものです。

十戒の何よりも一番は「わたしのほかに、ほかの神々があってはならない。」という命令です。それは当然、偶像礼拝への戒めとなります。見えるもので偶像礼拝をするクリスチャンはまずいないと思いますが、聖書には”…このむさぼりが、そのまま偶像礼拝なのです。”と書かれています。自分の欲望を神様の上に置いていないか、考えてみましょう。

また「あなたの神、主の御名を、みだりに唱えてはならない。」とあります。神様の権威ある名を自分の都合のために用いてしまうことがないか、考えてみましょう。信仰的に見せかけて、実は自分のためでやっていないかということです。そこは誰もがさらに純粋になってゆくべきところでしよう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は抜おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



5:12 安息日を守って、これを聖なる日とせよ。あなたの神、主が命じられたとおりに。

5:13 六日間、働いて、あなたのすべての仕事をしなければならぬ。

5:14 しかし七日目は、あなたの神、主の安息日である。あなたはどんな仕事もしてはならない。・・あなたも、あなたの息子、娘も、あなたの男奴隷や女奴隷も、あなたの牛、ろばも、あなたのどんな家畜も、またあなたの町囲みのうちにいる在留異国人も。・・そうすれば、あなたの男奴隷も、女奴隷も、あなたと同じように休むことができる。

5:15 あなたは、自分がエジプトの地で奴隷であったこと、そして、あなたの神、主が力強い御手と伸べられた腕とをもって、あなたをそこから連れ出されたことを覚えていなければならない。それゆえ、あなたの神、主は、安息日を守るよう、あなたに命じられたのである。

5:16 あなたの父と母を敬え。あなたの神、主が命じられたとおりに。それは、あなたの年齢が長くなるため、また、あなたの神、主が与えようとしておられる地で、しあわせになるためである。

5:17 殺してはならない。

5:18 姦淫してはならない。

5:19 盗んではならない。

5:20 あなたの隣人に対し、偽証してはならない。

5:21 あなたの隣人の妻を欲しがってはならない。あなたの隣人の家、畑、男奴隷、女奴隷、牛、ろば、すべてあなたの隣人のものを、欲しがってはならない。」

新しい地で祝福を受けるために必要なのが、安息日を守ることです。神に造られた人間は、神を何よりも第一にしなくてはなりません。それは毎日のはずですが、主はせめてこの日だけは神を第一として、神にのみ従って過ごさないと命じられます。

またそれは心の安息であり、社会全体の安息でもありました。それによって、その人が神を本当に信じているかどうか分かります。ですからそこに祝福があるのです。

それは現代も同じです。日曜に仕事を休めない場合や、社会的な緊急事態もあるかもしれませんが、その場合はインターネットやスマホなどで工夫して、主を第一とさせていただきます。

次に親を敬えということです。親との関係が健全であれば人間関係も健全になりやすいですし、生きづらさから開放されます。それは”幸せ”の重要な要素でしょう。敬えない事情がある人は主に回復を願いましょう。

殺し、姦淫、盗みなどは稀なケースかもしれませんが、イエス様は”心の中の殺し、姦淫、盗み”を問題にされます。私たちは心も行動も、神の民としてふさわしい日常を送りましょう。

偽証は犯罪の温床です。隣人に対してというように個人的な範囲であっても気をつけましょう。貪欲は罪の温床です。自分のもので満足することが、幸いな人生です。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



5:22 これらのことばを、主はあの山で、火と雲と暗やみの中から、あなたがたの全集会に、大きな声で告げられた。このほかのことは言われなかった。主はそれを二枚の石の板に書いて、私に授けられた。

5:23 あなたがたが、暗黒の中からのその御声を聞き、またその山が火で燃えていたときに、あなたがた、すなわちあなたがたの部族のすべてのかしらたちと長老たちとは、私のもとに近寄って来た。

5:24 そして言った。「私たちの神、主は、今、ご自身の栄光と偉大さを私たちに示されました。私たちは火の中から御声を聞きました。きょう、私たちは、神が人に語られても、人が生きることができるのを見ました。

5:25 今、私たちはなぜ死ななければならないのでしょうか。この大きい火が私たちをなめ尽くそうとしています。もし、この上なお私たちの神、主の声を聞かざらば、私たちは死ななければなりません。

5:26 いったい肉を持つ者で、私たちのように、火の中から語られる生ける神の声を聞いて、なお生きている者がありますか。

5:27 あなたが近づいて行き、私たちの神、主が仰せになることをみな聞き、私たちの神、主があなたにお告げになることをみな、私たちに告げてくださいますように。私たちは聞いて、行ないます。」

5:28 主はあなたがたが私に話していたとき、あなたがたのことばの声を聞かれて、主は私に仰せられた。「わたしはこの民があなたに話していることばの声を聞いた。彼らの言ったことは、みな、もっともである。

5:29 どうか、彼らの心がこのようであって、いつまでも、わたしを恐れ、わたしのすべての命令を守るように。そうして、彼らも、その子孫も、永久にしあわせになるように。

5:30 さあ、彼らに、『あなたがたは、自分の天幕に帰りなさい。』と言え。
5:31 しかし、あなたは、わたしとともにここにとどまれ。わたしは、あなたが彼らに教えるすべての命令・おきてと定め・を、あなたに告げよう。彼らは、わたしが与えて所有させようとしているその地で、それを行なうのだ。」

5:32 あなたがたは、あなたがたの神、主が命じられたとおりに守り行ないなさい。右にも左にもそれではならない。

5:33 あなたがたの神、主が命じられたすべての道を歩まなければならない。あなたがたが生き、しあわせになり、あなたがたが所有する地で、長く生きるためである。

十戒が神から与えられた様子が、その偉大さをいかに表しているかが語られます。主は「山が火で燃え」「火の中から…語られ」たのです。私たちも主の偉大さを経験したことを思い出しましょ。そして、その主が何を語っておられるか、その御心を聞きましょ。

主は「命じられたとおりに守り行」うように、また「主が命じられたすべての道を歩」むようにとされます。それは「生き」て「しあわせ」になり、そして「長く生きる」ためですから、私たちのためなのです。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



6:1 これは、あなたがたの神、主が、あなたがたに教えよと命じられた命令・おきてと定め・である。あなたがたが、渡って行って、所有しようとしている地で、行なうためである。

6:2 それは、あなたの一生涯の間、あなたも、そしてあなたの子も孫も、あなたの神、主を恐れて、私の命じるすべての主のおきてと命令を守るため、またあなたが長く生きることのできるためである。

6:3 イスラエルよ。聞いて、守り行ないなさい。そうすれば、あなたはしあわせになり、あなたの父祖の神、主があなたに告げられたように、あなたは乳と蜜の流れる国で大いにふえよう。

6:4 聞きなさい。イスラエル。主は私たちの神。主はただひとりである。

6:5 心を尽くし、精神を尽くし、力を尽くして、あなたの神、主を愛しなさい。

6:6 私がきょう、あなたに命じるこれらのことばを、あなたの心に刻みなさい。

6:7 これをあなたの子どもたちによく教え込みなさい。あなたが家にすわっているときも、道を歩くときも、寝るときも、起きるときも、これを唱えなさい。

6:8 これをしるしとしてあなたの手に結びつけ、記章として額の上に置きなさい。

6:9 これをあなたの家の門柱と門に書きしるしなさい。

十戒という根本的な戒めが語られたところで、ここからは具体的な命令になってきます。そこでまずその命令の大切さが語られます。

それは「あなたがたが、渡って行って、所有しよ

うとしている地で、行なうため」の戒めであり、また「長く生きるための」「しあわせになり」「大いにふえ」るためという、その目的が明示されています。私たちが神様から受ける戒めもまた同じで、神様の愛によるものですから、喜んで従いましょう。

そのような神の愛に答えるとき、私たちの心もまた愛に満たされます。そこで神様は規則に従うという表面的なことではなく、「主を愛しなさい。」という心のあり方を求めておられます。

また主のことばを「心に刻む」ために、また「子どもたちに教え込む」ために、「すわっているときも、道をおくるときも、寝るときも、起きるときも」、みことばを唱えるようにとっておられます。また「額の上」に、「そして門柱と門」に書きしるしなさいとあります。これだけの努力をするなら、私たちの心に御心が入ってくるでしょう。

そこまでではなくても、何か努力をするなら、大きな祝福となるでしょうから、やってみましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



われる。

6:10 あなたの神、主が、あなたの先祖、アブラハム、イサク、ヤコブに誓われた地にあなただを導き入れ、あなたが建てなかった、大きくて、すばらしい町々、

6:11 あなたが満ちたさなかつた、すべての良い物が満ちた家々、あなたが掘らなかつた掘り井戸、あなたが植えなかつたぶどう畑とオリブ畑、これらをあなたに与え、あなたが食べて、満ち足りるとき、

6:12 あなたは気をつけて、あなたをエジプトの地、奴隷の家から連れ出された主を忘れないようにしなさい。

6:13 あなたの神、主を恐れなければならない。主に仕えなければならない。御名によって誓わなければならない。

6:14 ほかの神々、あなたがたの回りにいる国々の民の神に従ってはならない。

6:15 あなたのうちにおられるあなたの神、主は、ねたむ神であるから、あなたの神、主の怒りがあなたに向かって燃え上がり、主があなたを地の面から根絶やしにされないようにしなさい。

6:16 あなたがたがマサで試みたように、あなたがたの神、主を試みてはならない。

6:17 あなたがたの神、主の命令、主が命じられたさとしとおきてを忠実に守らなければならない。

6:18 主が正しい、また良いと見られることをしなさい。そうすれば、あなたはしあわせになり、主があなたの先祖たちに誓われたあの良い地を所有することができる。

6:19 そうして、主が告げられたように、あなたの敵は、ことごとくあなたの前から追い払

イスラエルが祝福を受けたときに、主は最も警戒するようにモーセを通して、語られました。そのようなときに、人は神を忘れてしまうからです。それは「ほかの神々」すなわち偶像礼拝になって表れます。

私たちも同じで、安心するとそれまで頼っていた主を忘れ、主なしでやっていけると思い込んでしまいます。それで自分を神としてしまったり、別の勝手なものを神にしてしまうのです。その結果「根絶やしにされ」してしまうのです。

今安心してゐる者は感謝しましょう。そしていっそう主に頼り、従いましょう。何をすればよいか主に聞きましょう。主と人のために、愛を持ってさらに求めるものを願いましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



6:20 後になって、あなたの息子があなたに尋ねて、「私たちの神、主が、あなたがたに命じられた、このさとしとおきてと定めとは、どういうことか。」と言うなら、

6:21 あなたは自分の息子にこう言いなさい。「私たちはエジプトでパロの奴隷であったが、主が力強い御手をもって、私たちをエジプトから連れ出された。

6:22 主は私たちの目の前で、エジプトに対し、パロとその全家族に対して大きくてむごいしるしと不思議とを行ない、

6:23 私たちをそこから連れ出された。それは私たちの先祖たちに誓われた地に、私たちをはいらせて、その地を私たちに与えるためであった。

6:24 それで、主は、私たちがこのすべてのおきてを行ない、私たちの神、主を恐れるように命じられた。それは、今日のように、いつまでも私たちがしあわせであり、生き残るためである。

6:25 私たちの神、主が命じられたように、御前でこのすべての命令を守り行なうことは、私たちの義となるのである。」

私たちの信仰を子供たちに伝えることができるというのは幸いなことです。それには「…どういうことか。」と尋ねてもらえることが必要です。それは信仰がライフスタイルになっているということです。クリスチャンでありながら、子供に親の信仰の姿を見せていないとしたら、それでは信仰継承は無理というものです。

親の祈る姿、聖書を読む姿、礼拝に行く姿、教会で奉仕をする姿を見られる子供は幸いです。そして、もしも信仰について聞かれたら、「私たちを連れ出された。」とどのように、救いの事実を語りましょう。

また「その地を私たちに与えるためであった。」というように、神の祝福を語りましょう。また「命令を守り行なうことは、私たちの義となる」というように、正しい生き方を語りましょう。

私たちの子供とは、パウロがオネシモを生んだと表現したように、肉の子供だけでなく、信仰の次世代も意味します。次世代を、信仰の生き様によって育てましょう。あなたにとってそれは誰でしょうか。具体的にどのように育てると良いでしょうか。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



7:1 あなたが、はいつて行って、所有しようとしている地に、あなたの神、主が、あなたを導き入れられるとき、主は、多くの異邦の民、すなわちヘテ人、ギルガシ人、エモリ人、カナン人、ペリジ人、ヒビ人、およびエブス人の、これらあなたよりも数多く、また強い七つの異邦の民を、あなたの前から追い払われる。

7:2 あなたの神、主は、彼らをあなたに渡し、あなたがこれを打つとき、あなたは彼らを聖絶しなければならない。彼らと何の契約も結んではならない。宥赦してはならない。

7:3 また、彼らと互いに縁を結んではならない。あなたの娘を彼の息子に与えてはならない。彼の娘をあなたの息子にめとってはならない。

7:4 彼はあなたの息子を私から引き離すであろう。彼らがほかの神々に仕えるなら、主の怒りがあなたがたに向かって燃え上がり、主はあなたをたちどころに根絶やしにしてしまわれる。

7:5 むしろ彼らに対して、このようにしなければならない。彼らの祭壇を打ちこわし、石の柱を打ち砕き、彼らのアシェラ像を切り倒し、彼らの彫像を火で焼かなければならない。

7:6 あなたは、あなたの神、主の聖なる民だからである。あなたの神、主は、地の面のすべての国々の民のうちから、あなたを選んでご自分の宝の民とされた。

7:7 主があなたがたを恋い慕って、あなたがたを選ばれたのは、あなたがたがどの民よりも数が多かったからではない。事実、あなたがたは、すべての国々の民のうちで最も数が

少なかった。

7:8 しかし、主があなたがたを愛されたから、また、あなたがたの先祖たちに誓われた誓いを守られたから、主は、力強い御手をもってあなたがたを連れ出し、奴隷の家から、エジプトの王パロの手からあなたを贖い出された。

7:9 あなたは知っているのだ。あなたの神、主だけが神であり、誠実な神である。主を愛し、主の命令を守る者には恵みの契約を千代までも守られるが、

7:10 主を憎む者には、これに報いて、主はたちどころに彼らを滅ぼされる。主を憎む者には猶予はされない。たちどころに報いられる。

7:11 私が、きょう、あなたに命じる命令・おきてと定め・を守り行なわなければならない。

約束の地ではありますが、そこには偶像と不道徳の民が大勢いました。神様はこれらの民にイスラエルも影響されやすいことを知っていました。神様は聖絶を命じなさいました。結婚がその一番重要な点で、婚姻関係が偶像礼拝をもたらさないように、それを禁止なさったのです。またアシェラ像などの偶像を打ち砕くことも命じられました。私たちの周りにもこの世では偶像がたくさんあります。また神を無視して生きる人々や価値観があふれています。もしもこれらと手を結び、同じ生き方をするなら、私たちのたましいは神様から離れてゆくでしょう。そして主の祝福を失ってしまうのです。

主はそうならないように、イスラエルもまた私たちにも命令なさるのです。主の愛の命令を聞きましよう。そして自分にとって何が偶像礼拝になっているか、祈って教えていただきましよう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあつて何を実践しますか？

